

## (仮称) 南長野運動公園フットボール場 事業手法について



令和4(2022)年 10月

文化スポーツ振興部スポーツ課国民スポーツ大会準備室

本事業は長野市PPP／PFI手法導入優先的検討方針に基づき、事業費の総額が10億円以上の公共施設整備を見込むため、PFI等の官民連携手法の導入について検討を実施したもの

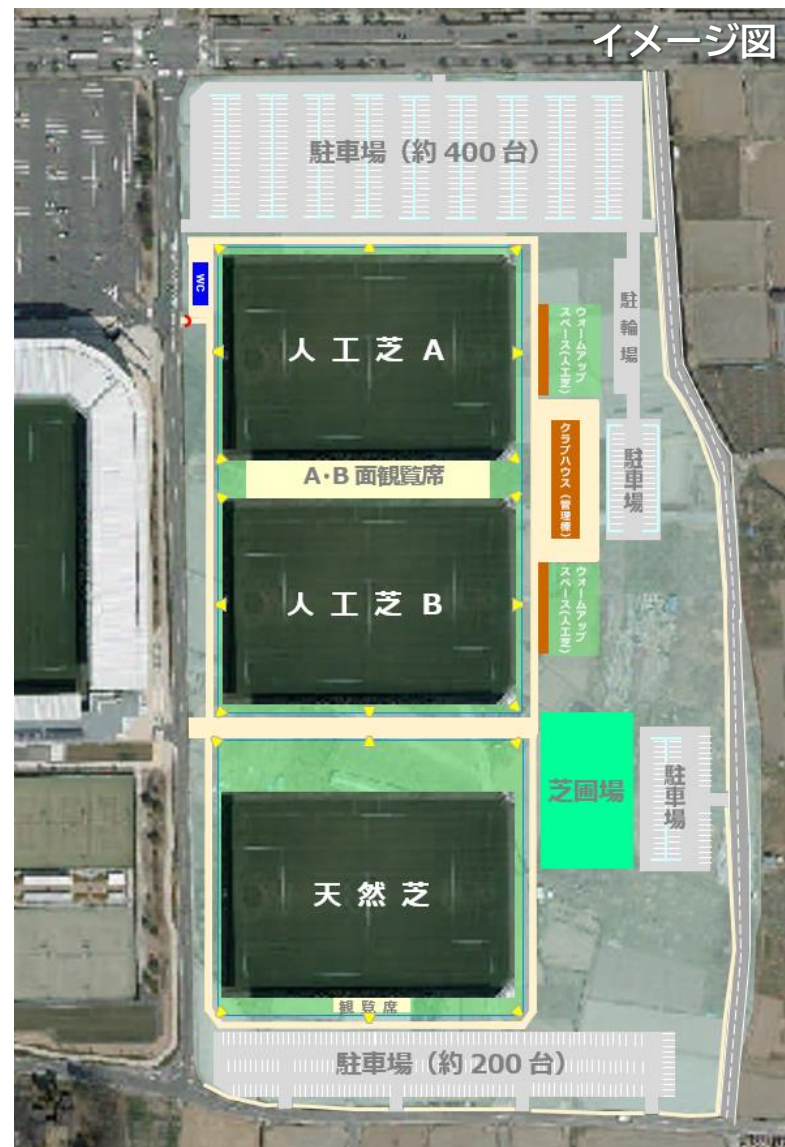
## 施設計画

■ 概算事業費 3,745,000 千円

■ 施設規模 約100,000㎡ (10ha)

・ 南長野運動公園の公園区域を東側に拡張して整備

- 天然芝1面・人工芝2面 …1面あたり 縦120m×横80m程度
  - クラブハウス(管理棟) …シャワー付き更衣室・医務室・会議室 等
  - 付帯設備 …夜間照明・防球ネット・観客席・公衆トイレ 等
  - その他 …駐車場<sup>※</sup>、天然芝用圃場、ウォームアップスペース 等
- ※ 南長野運動公園は休日における慢性的な駐車場不足の課題があるため、フットボール場整備にあわせて駐車場を増設する。



イメージ図は基本設計等により変更になる場合があります

- ・「長野市PFI等活用ガイドライン」に基づき、国が示す「簡易な検討の計算表」を用いてVFMを算出
- ・「簡易な検討の計算表」では、従来方式と以下3つの事業手法を比較することとしている（指定管理者制度を除く）

### VFMの数値

①BTO方式ほか (PFI手法)	②DBO方式 (PPP手法)	③BT方式 (PFI方式)
-1.9%	-3.2%	-3.3%

⇒ 財政支出削減効果は見込めないため  
左記の事業手法は採用しない

### VFMが出ない理由

従来方式による整備費用に対して民間による整備で得られる財政削減額以上に、SPC（特別目的会社）設立時の資本金、業務委託等に係る調査等費用、民間事業者による資金調達金利（公共が調達する起債金利より高い金利）、法人税等の税金などの費用が発生するため、VFM（財政支出削減率）が出ない。

### その他手法の検討（次ページ）

本事業で想定されるPPP手法「DB方式」「ECI方式」及び「従来方式」を比較検討

#### ■ DB方式の特徴

設計・施工を一括で発注するため、従来手法より民間ノウハウを活用できる



#### ■ 本事業で想定する施設

- ・フットボール場は一般的なもの(下記写真)を想定
- ・クラブハウス(管理棟)も、運営上必要な諸室を整備するものであり、民間ノウハウの活用は小さい

#### ■ ECI方式の特徴

特殊な構造の建築物や施工が困難な敷地条件等の難工事の場合、施工業者の技術を設計に反映できる



#### ■ 本事業で想定する施設

- ・クラブハウス(管理棟)は特殊な構造の建築物は想定していない
- ・新たに用地を取得するため、整備に当たり困難な敷地条件ではない

<参考> 県内類似施設においても、**従来方式**による整備



民間ノウハウを活用できる余地は少なく、従来方式でも対応可能

- ・ 現在、南長野運動公園は、指定管理者制度を適用し、維持管理・運営を行っている
- ・ フットボール場整備後の維持管理・運営施設を、現在と同様の指定管理者制度適用施設にフットボール場を加え一体で維持管理・運営した場合と、フットボール場単独で維持管理・運営した場合の比較を行った

管理・運営 比較項目	現在と同様の指定管理者制度適用施設 +フットボール場とした場合	フットボール場を単独とした場合
市民の利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南長野運動公園全体が管理範囲のため、窓口が一本化される</li> <li>○ 南長野運動公園利用者の利用状況や要望等を一元化できることから、ニーズにあったサービス提供が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 南長野運動公園内で施設の管理者が異なるため、問い合わせ窓口が複数になり、市民の利便性が低下する</li> <li>△ 利用者の要望等に対して施設ごとの対応となるため、南長野運動公園全体のサービス向上が望めない</li> </ul>
災害等緊急時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南長野運動公園全体の状況を一元管理しているため、迅速な対応が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ それぞれの施設管理者と調整が必要であり、迅速な対応ができない</li> </ul>
コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 芝生管理機材の共用化によりコスト削減が見込める</li> <li>○ 人員配置の効率化による運営費の縮減が可能</li> <li>○ 維持管理対象施設が多いことでスケールメリットによるコスト縮減が見込める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ それぞれの管理施設ごとに人員を分けなければならないため、効率が悪く、コストの縮減が見込めない</li> </ul>
公園全体の 有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大規模な大会等の開催時、駐車場や施設間の利用調整が可能である</li> <li>○ 公園全体を使った幅広い活用が可能で、稼働・集客の面で施設間の相乗効果が見込める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 公園内の施設管理者が異なるため南長野運動公園全体を利用した大規模な大会等の開催には相当前からの事前調整が必要</li> </ul>



〈凡例〉 ○：メリット △：デメリット

南長野運動公園を一体管理とすることで効率的な維持管理・運営が可能

## 事業手法

### PFI手法等の導入について

- ・ VFMがマイナスのため、導入するメリットがない



PFI手法は採用しない

### 採用する事業手法について

- ・ 民間ノウハウを活用できる余地は少なく、従来方式でも対応可能



従来方式

### 維持管理運営について

- ・ 指定管理者制度導入施設と合わせ、一体管理とすることで効率的な維持管理・運営が見込める



南長野運動公園全体で  
指定管理者制度を適用

## 今後検討する事項

### 公的費用の縮減

- ・ フットボール場を利用するサッカークラブ等から施設整備に当たっての財政支援を求めるほか、クラウドファンディング、ふるさと納税等を検討する。